

環境に配慮したまちづくりへの取組

■UR 都市機構の CO2 排出削減の枠組

UR 都市機構は平成 20 年に、地球温暖化対策実行計画「UR-eco プラン 2008」を策定・公表しました。3つの業務フィールド（住環境・都市再生・郊外）とこれに関する建設工事、UR 都市機構の職員が業務を行うオフィス。これらを対象に UR 都市機構が CO2 の排出する度合いにより3つの領域に区分し、CO2 排出削減の枠組としました。



<基本的な考え方>

- あらゆる分野で取組を進め、削減総量の拡大をめざします
- 効果の高い取組を優先的に進めます
- お住まいの方々や事業者・地方公共団体などと連携・協働した取組を展開します
- 技術的な蓄積を活かした計画・設計や研究開発を推進します

■低炭素まちづくりに向けた検討

<構想・計画づくり段階の検討>

- 環境配慮まちづくりのポテンシャルの把握 (地方公共団体の規制、環境配慮型不動産の価値、地域資源の活用)
- 環境配慮まちづくりの場の創出 (まちづくり協議会、重点実施地区、当該地区の方向づけ)
- 環境配慮まちづくりのビジョンの確立 (当該地区における環境配慮の目的・位置づけ、対策メニューと導入手法)

<環境対策と削減目標の検討>

- まちづくりビジョンにあわせて対策メニューを選定
- 環境配慮対策の対象範囲・導入水準を検討
- 効果と実効性を踏まえて環境配慮対策とCO2削減目標を決定

<事業実施段階の検討>

- 環境配慮の取組の提示 (開発コンセプト・方針、都市計画・開発条件、建物仕様・土地譲渡条件)
- 環境配慮誘導の仕組の提示 (環境配慮事項を盛り込んだ指針、土地譲渡等公募、地区計画等の提案)

取組事例のご紹介

■低炭素先進モデル街区のコーディネート 城野地区

環境モデル都市に選定された北九州市では、低炭素社会に対応したまちづくりが進められています。北九州市は、陸上自衛隊城野分屯地跡地等を中心とした城野地区（約33ha）を、市街地における低炭素型のまちづくりの先例となる「低炭素先進モデル街区」と位置づけ、「ゼロ・カーボン」を目標に、「まち」の整備段階から成長段階までを通して、住民にとって実施可能である総合的な低炭素化技術・方策を検討しており、UR都市機構はコーディネートにより低炭素先進モデル街区の実現に向けた支援を行っています。

●ゼロカーボンを実現した次世代アメニティタウンの形成（イメージ）



■地域や企業と連携した環境共生のまちづくり 越谷レイクタウン地区

平成20年春にまちびらきした越谷レイクタウン（埼玉県越谷市、地区面積約226ha）は、総合治水対策として地区内に大規模な調節池を配置するとともに「親水文化創造都市～環境共生を先導するまちづくり」をテーマに整備を進めています。

1. 環境モデル街区の配置

UR都市機構は、調節池に隣接する大街区を環境モデル街区（約31ha）と位置づけ、住宅街区では街区全体でCO₂排出量を20%以上削減すること、次世代省エネルギー基準を達成すること等を土地譲渡条件とすることで住宅事業者の環境配慮を誘導しました（環境省「街区まるごとCO₂20%削減事業」の第一号に採択）。

また、商業施設街区でも先進的な環境配慮対策を実施しており、環境モデル街区全体でおおよそ9,400t-CO₂/年のCO₂排出削減効果が見込まれています。

2. 環境負荷を軽減した基盤整備

広大な調節池によるクールスポット効果、リサイクル材の使用、自転車専用レーンの設置、電線類の地中化など、環境負荷軽減を考えた基盤整備に取り組んでいます。

3. 環境に配慮したライフスタイル

越谷レイクタウンでは様々な市民団体が環境活動を実施しています。環境共生を先導するまちづくりの取組を広く紹介し、地域活動の拠点となる「水辺のまちづくり館」を設置しました。地域交流や環境学習の場としても利用ができます。

当館を拠点として、地域と一緒に、水辺のライフスタイルを楽しみながら環境に配慮したライフスタイルを考えていきます。

●環境モデル街区



●太陽熱温水パネル（集合住宅）

